

「勉強についての相談」を受けることにした経緯

私が進学校に勤務していた時、ある母親が私にこんな話をしてくれました。

「中学時代はバスケットに夢中になって、あまり勉強をしていなかった。中学3年の秋頃から約半年間、高校受験のため、ある塾に通わせた。希望する進学校には入れたが、親子で喜んだのも束の間、5月の連休も終わり学校の学力テスト、その後の定期考査の結果など、中学時代に取ったことのないような点数を取ってきて、最初はショックだったが、だんだん慣れてきて、ついには赤点(30点未満)さえとらないで無事卒業できればよいと思うようになった。」

寂しい話じゃありませんか。せっかくお金をかけて塾へ通わせたのに、これじゃ何のために進学校に入ったか分かりませんね。

落ち着いて考えれば、当たり前の話です。普通の人々が3年かけて学習する内容を半年でやるのですから無理が生じます。本来は試行錯誤しながら自分の頭で考え、ときには驚きや感動を伴いながらじっくり理解していくものを、時間がないため理解せずひたすら暗記、暗記(ある程度の暗記は必要です)。テストで点数をとるためだけの勉強。これじゃ勉強はつまらない。

親御さんたちの中にはテストで点数をとれば理解しているものと思っている人もいるかもしれませんが、必ずしもそうではありません。

原因は、「学び方を学ぶ」という態度を身につけず、単に知識を仕入れ、その場しのぎだったことです。

「学び方を学ぶ」とは、自分から主体的に学んでいく態度のことをいいます。これからの時代、社会に出れば当然必要とされる能力です。しかし、この「学び方を学ぶ」という態度は、一朝一夕ではできません。早めの対応が必要になります。若いうちにこの「学び方を学ぶ」を身につければ一生の「財産」です。お金や物と違い人から盗まれても無くなりません。これが本当の「財産」なのです。

「備えあれば憂いなし」、「学問に王道なし」とはよく言ったものです。

10代のときの1年間は30代、40代の1年間とは比べ物にならない密度です。その時期をどう過ごすかでその後の人生が決まるといっても過言ではありません。

しかし、現実には上述したような勉強に終始して人生最高の時期をつまらない過ごし方をしている生徒が本当に多いのです。

そのことに気づいていない生徒たちや親御さんたちに、私の経験から得たものを少しでもお伝えして参考にさせていただければと思った次第です。

相談に来られた時には、もっと具体的な内容をお知らせすることができると思います。なお、塾・予備校などを選ぶのに困っている人には、選び方のポイントもアドバイスいたします。